

追悼文

第 8 回バイオミネラリゼーション国際シンポジウム（2001、新潟）で組織委員会委員長を務められた小林巖雄先生（新潟大学名誉教授）は 4 月 11 日に急逝されました。享年 83 歳でした。先生は二枚貝の貝殻構造とその系統進化に関する研究を 1960 年代から始められ、多くの先駆的な成果をあげられました。加えて、日本のバイオミネラリゼーション研究の国際的かつ学際的な交流発展に多大な寄与をされています。謹んでご冥福をお祈りいたします。

小林巖雄先生は 1964 年（昭和 39 年）東京教育大学（当時）理学研究科博士課程を修了され理学博士の学位を取得されました。当時所属していた大森晶衛先生の研究室（古生物学）では、化石の研究に生物学などの最新の成果・手法を積極的に取り入れており、先生の学位論文のタイトルは「Introductory study on the shell structure of bivalvian molluscs」でした。1968 年、新潟大学理学部地質鉱物学科に助手として着任、1970 年に助教授、1987 年に教授と昇任され、2002 年に定年で退職されるまで、同教室で研究と教育に邁進されました。この間、二枚貝の貝殻微細構造と進化のテーマを中心に、幅広く化石とバイオミネラリゼーションの研究を進められました。バイオミネラリゼーション国際シンポジウムには、第 2 回（1974、合衆国ジョージタウン）から、第 3 回（1977、三重県賢島）、第 4 回（1982、オランダ）、第 6 回（1990、小田原、この時は事務局長）、第 7 回（1993、モナコ）と参加され、とりわけ、第 8 回（2001 年 9 月 25-28 日、新潟県黒川）ではオーガナイザーを務めておられます。この時の Proceedings が Kobayashi I, Ozawa H (eds) Biomineralization (Biom2001), formation, diversity, evolution and application. Tokai Univ. Press, 2004 として出版されています。その後も、第 9 回（2005、チリ）と第 10 回（2008、中国連雲港）で研究成果を発表されました。また、東アジア地域を中心とした国際研究集会（Asian Symposium on Biomineralization (ASB, 第 1 回 1998, 北京: 第 2 回 2004, 北京: 第 3 回 2007, 厦門: 第 4 回 2009, 杭州)）にも欠かさず参加されていました。

国内の研究集会も機会をとらえ活発に開催されました。主なものでは、第 29 回国際地質学会 (IGC, 1992, 京都) で化石硬組織分野のシンポジウムを行い、その結果が論文集 (Kobayashi I, Mutvei M, Shani A (eds) Structure, formation and evolution of fossil hard tissue. Tokai Univ. Press, 1993) として出版されています。また、渡部哲光先生退職記念研究集会（1994、三重大学）の準備委員会代表を務められ、その成果も出版されました（和田浩爾・小林巖雄編著、海洋生物の石灰化と硬組織、東海大学出版会、1996）。

先生は、バイオミネラリゼーション以外でも、新潟・佐渡地域の地質・古生物に関する数多くの研究成果を残されました。また、海外からの留学生の研究指導にも力を入れておられました。退職後は新潟県佐渡のジオパーク認定に特に大きく貢献されています（2013 年に日本ジオパーク認定）。2014 年ころから体調を崩され、最近では車椅子で生活をしながらリハビリを行っておられました。昨年 11 月にお会いした時には普通にお話もできたのですが、このたび身体状況が急激に悪化し、帰らぬ人となりました。

2020 年 5 月 2 日
日本歯科大学 名誉教授
笹川一郎